

第48回 2016（平成28）年
社会保険労務士試験

T A C 社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第48回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、選択式及び択一式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した解答解説会時配布資料又はT A C 社会保険労務士講座の情報誌『合格への招待』2016年臨時増刊号に掲載しております。

なお、この資料の分析結果は、あくまでも復元解答を元に作成した現時点でのT A C の見解であり、第48回本試験の結果を保証するものではありません。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.6へ

※2016（平成28）年「社会保険労務士データリサーチ」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」 「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承ください。

第48回社会保険労務士試験 分析資料

選択式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2016(H28)	4.2	4.3	2.8	2.1	3.5	3.3	3.2	3.9	27.3	?	?
2015(H27)	3.9	2.6	3.8	1.9	3.2	2.8	3.1	3.2	24.5	21	2.6
2014(H26)	4.1	4.2	4.3	3.0	4.0	3.6	4.1	4.8	32.2	26	9.3
2013(H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012(H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0
2011(H23)	3.4	2.4	4.3	2.8	2.6	4.2	3.7	3.5	26.9	23	7.2
2010(H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	3.0	3.5	2.8	2.3	27.3	23	8.6
2009(H21)	2.7	3.4	4.5	2.9	4.0	4.7	4.1	4.4	30.7	25	7.6
2008(H20)	3.6	3.6	4.3	3.3	4.3	2.2	3.2	3.1	27.7	25	7.5
2007(H19)	4.3	4.0	4.7	3.2	3.6	4.7	4.7	3.8	32.9	28	10.6

※白抜き数字は2点（2008年の健保、2010年の国年、2013年の社一は1点）が認められた科目

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇選択式の平均点は27.3点となり、過去10年間で最低となった昨年の24.5点を2.8点上回り、2010年と同水準となっている。
- ◇平均点が4点以上の科目がなかった昨年と比較すると、科目ごとの得点は高くなっている。
- ◇最も点数が伸びていなかった科目は昨年同様「労一」で、平均点は2.1点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
5点	42.1	49.5	7.7	0.9	18.5	14.7	16.7	43.3
4点	41.2	34.0	20.9	4.6	33.5	44.7	23.0	26.6
3点	11.8	12.8	30.6	27.0	29.8	17.9	34.4	16.1
2点	3.5	3.4	27.8	41.0	12.0	8.6	17.3	9.3
1点	0.9	0.2	11.0	22.0	5.0	7.8	6.7	4.1
0点	0.4	0.1	2.0	4.5	1.2	6.3	1.8	0.6
2点以下割合	4.9	3.7	40.7	67.6	18.1	22.7	25.9	14.0

択一式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2016(H28)	5.7	6.0	6.2	5.4	5.6	5.8	4.8	39.4	?	?
2015(H27)	6.4	6.1	5.6	5.4	5.2	6.5	6.1	41.4	45	2.6
2014(H26)	6.6	6.5	6.2	4.9	7.0	6.9	6.2	44.3	45	9.3
2013(H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012(H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011(H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010(H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6
2009(H21)	6.8	6.1	6.2	5.8	6.3	6.6	7.1	44.9	44	7.6
2008(H20)	7.0	6.6	7.1	7.3	5.3	5.8	7.3	46.4	48	7.5
2007(H19)	5.4	6.4	7.2	6.7	6.4	6.7	6.1	44.9	44	10.6

※白抜き数字は、3点可とされた科目

※2009年 国年間8は正答なし。全員加点。

※2010年 社一間7、健保問2、国年間10は正答なし。全員加点。厚年間10-AB、国年間7-CEは複数正答。

※2011年 災徴問8-CEは複数正答。

※2015年 雇用問6は正答なし。全員加点。

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇平均点は39.4点と過去10年間で最低水準となっており、総得点の平均点が40点に届かなかったのも過去10年で初めてとなっている。
- ◇基本問題の占める割合（50%→53%）は昨年並みだが、応用問題の占める割合は（36%→41%）と上昇しており、考えて解かせる問題の占める割合が相対的に高くなってきている。
- ◇ここ数年同様、組み合わせ問題に加えて、個数問題の出題が見られ、事例問題の出題もすっかり定着した感がある。特に個数問題は昨年の3問から7問と出題数が増加している。
- ◇最も平均点の高い科目は、[雇徴]の6.2点、最も低いものは[国年]の4.8点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
10点	0.1	1.2	0.9	0.2	1.4	3.5	0.4
9点	0.8	5.8	7.2	3.2	5.1	8.3	1.8
8点	6.9	12.9	17.0	11.6	12.8	13.4	5.9
7点	18.9	18.7	22.0	16.3	17.8	15.0	12.1
6点	33.4	23.9	19.6	20.4	16.7	16.3	17.9
5点	24.6	17.0	15.5	17.7	16.1	12.9	17.8
4点	10.5	11.9	8.6	12.8	12.6	12.2	17.4
3点	3.8	5.9	5.8	8.2	10.0	9.4	13.4
2点	0.9	2.3	2.4	5.6	5.2	6.4	8.9
1点	0.2	0.4	0.8	3.1	2.0	2.1	3.6
0点	0.0	0.1	0.1	0.9	0.2	0.6	0.9

3点以下割合	4.9	8.7	9.0	17.7	17.3	18.5	26.8
---------------	-----	-----	-----	------	------	------	------

【総合得点の検証】

●選択式の総合得点

過去のデータをみると満点の7割である「28点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整しているものと考えられる。補正科目が多い年は、全体の平均点も低くなることから合格基準点も比較的低くなる傾向にある。

詳細なデータは省略させていただくが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約7点程度高く出る傾向がある。これは、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあるためと考えられる。しかし、実際の本試験の平均点が大きく上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の傾向を示しており、両者の動きにはある程度の共通性があると推測することができる。本年度も同様であれば、昨年よりも合格基準点が引き上げられる可能性が高い。

●択一式の総合得点

択一式の平均総合得点（39.4点）は、45点が合格基準点であった昨年のデータリサーチ結果と比較すると、▲2点となっている。択一式の合格基準点も、満点の7割を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整しているものと考えられる。

こちらも、詳細なデータは省略させていただくが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約10点程度高く出る傾向がある。選択式同様、データリサー

チの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っているためと考えられるが、やはり、実際の本試験の平均点が上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の動きをする傾向があり、両者の動きには共通点が見られる。前述の通り、データリサーチの択一式総得点の平均点は39.4点と昨年のそれより下がっていることから、昨年の合格基準点と同レベルあるいは若干の引き下げとなる可能性がある。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●選択式の合格基準補正の可能性

今年の選択式試験では、全科目のうちで平均点が3点未満の科目が[労一]2.1点、[雇用]2.8点と2科目ある。このうち[労一]の2点以下割合は67.5%と群を抜いて高い。全体の得点分布をデータリサーチから詳細に把握することは困難だが、[労一]については、3点以上割合32.5%に対し、2点以上割合73.5%となっている。過去の事例を見てみると、3点以上の割合が低い科目について、おおむね補正が行われているが、補正を行った場合の合格基準点以上の受験者総数に占める割合が極端に高くなった場合は、補正が行われていない傾向が強い。この点も考慮すると、データリサーチの数字を見る限りでは、[労一]の補正が行われる可能性は五分五分ということができる。同様に平均点が2点台となっている[雇用]については、3点以上割合が59.2%と高いことから、補正が行われる可能性は[労一]に比して低いと言える。

<参考：過去の本試験で2点以下割合の高かったもの…データリサーチ資料より>

- ・2008(H20)…健保**62%** → 健保1点補正(他に国年・厚年2点)
- ・2009(H21)…基安**43%** → 基安2点補正(他に労災・厚年2点)
- ・2010(H22)…国年**58%**、厚年**41%** → 国年1点、厚年2点補正(他に社一・健保2点)
- ・2011(H23)…労災**51%**、労一**28%**、
社一**48%** → 労災・社一2点補正(他に基安・厚年・国年2点)
- ・2012(H24)…社一**41%** → 厚年2点補正
- ・2013(H25)…労災**76%**、社一**72%**、
健保**64%** → 社一1点、労災・健保2点補正(他に雇用2点)
- ・2016(H27)…労災**47%**、労一**75%** → 労一2点(他に社一・健保・厚年2点)

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験については、全体的に平均点が伸びていないが、その一方で極端に平均点が低い科目はなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は低いと思われる。しかし、過去のデータリサーチの集計結果と本試験の結果を見ると、データリサーチの平均点が5点を割った科目については、補正が行われている例が多く、この点も考慮に入れると、国年にわずかながら補正の可能性があるといえるが、その可能性はあまり高くはないだろう。

総合的な合格基準分析

【参考】過去の本試験結果とデータリサーチの結果

	本試験				データリサーチ			
	回数	受験者	合格者 (a)	合格率	提出者 (b)	合格者 (c)	※1 (c/b)	※2 (c/a)
2007 (H19)	39回	45,221	4,801	10.6%	2,605	1,278	49.1%	26.6%
2008 (H20)	40回	47,568	3,574	7.5%	2,587	862	33.3%	24.1%
2009 (H21)	41回	52,983	4,019	7.6%	2,597	1,043	40.2%	26.0%
2010 (H22)	42回	55,445	4,790	8.6%	3,000	1,315	43.8%	27.5%
2011 (H23)	43回	53,392	3,855	7.2%	2,671	925	34.6%	24.0%
2012 (H24)	44回	51,960	3,650	7.0%	2,521	862	34.2%	23.6%
2013 (H25)	45回	49,292	2,666	5.4%	1,885	558	29.6%	20.9%
2014 (H26)	46回	44,546	4,156	9.3%	2,199	1,014	46.1%	24.3%
2015 (H27)	47回	40,712	1,051	2.6%	1,676	295	17.6%	28.1%
2016 (H28)	48回	?	?	?	1,692	?	?	?

※1 データリサーチ提出者の合格率 (c/b)

※2 本試験合格者のうち、データリサーチ提出者が占める割合 (c/a)

- ここ数年の合格率の乱高下から考えると、あらかじめ「合格率」や「合格者数」を設定し、これに合わせて総合的に選択式、択一式の合格基準点を設定していると言うよりも、それぞれの全体の出来に応じて合格基準を設定し、その基準をクリアした者を合格としていると推定される。
1. の内容から考えると、データリサーチの結果から、本試験全体の平均点を推測し、本年度の合格基準点を予想していくことがおそらく最も現実的であろう。
- まず、選択式であるが、前述の通り、過去のデータを見てみると、本試験の平均点とデータリサーチの平均点の間にはある程度共通の動きをする傾向があり、この点を考慮すると、本試験の平均点も前年より高くなっていることが推測できるため、合格基準点は昨年よりも引き上げられる可能性が高い。データリサーチの総得点の平均点は、前年比で+2.8点となっており、本試験の平均点も同様の動きをしているのであれば、24~26点が合格基準点となる可能性が高い。労一については、平均点が3点を割り込んでいることから、合格基準点を2点とする補正が行われる可能性があるが、受験生の多くが2点に集中した場合、補正が見送られる可能性もある。

- 4.** 次に、択一式であるが、本年のデータリサーチの平均点は39.4点で前年の41.4点から2点下がっている。やはり、本試験の平均点が同様の動きをしていると仮定すれば、昨年の基準点45点から2点引き下げた43点が合格基準点となる。しかし、昨年は雇用で出題ミスによる全員加点が1問あったことや、データリサーチの平均点と本試験の平均点の差にある程度の誤差があることも考慮に入れると、44点～45点が基準点となる可能性が高い。択一式の補正の可能性であるが、昨年同様全体的に得点は伸びていないが、最も平均点の低い科目となった国年でも4.8点と極端に低いというわけでもない。したがって、補正が行われる可能性は低いと思われる。
- 5.** 本年度の本試験の特徴としては、択一式の難易度が昨年並みであったのに対し、選択式は昨年よりも得点しやすかったことがあげられる。合格基準の設定や選択式の補正については、P.5から触れた通りだが、補正については「平均点が低い」「2点以下の人数が多い」場合に行われやすい傾向にあるものの、全体の得点分布によっては補正が見送られることもあり、完全な予測をすることは困難である。また、択一式の合格基準も本試験での実際の得点分布や平均点を完全に把握することは困難であり、絶対とすることはできないが、データリサーチの結果から考えた場合、現状では前記**3 4**で述べた合格ラインが有力であると考えられる。